

【症例1】60歳代、男性

【主 訴】嘔気

【既往歴】狭心症（心臓カテーテル治療後）

【生活歴】喫煙歴：20-25歳に喫煙既往あり、飲酒歴：なし

【内服薬】ディオバン® 80mg 1錠/日、バイアスピリン® 100mg1錠/日、パナルジン® 100mg1錠/日、カデュエット配合錠4番® 1錠/日

【現病歴】1週間前から悪心、黒色便の自覚があり、通院中であった当院循環器内科を受診した。精査目的にて当科に紹介となった。

【身体所見】特記すべき異常所見なし

【血液検査所見】Hb 10.8 g/dlの正球性貧血を認めた。その他、特記所見なし。

【MDL】胃体中部大彎後壁より及び、胃体中部大彎前壁よりに薄いたまり像を認める。胃体上部～体中部の大彎側線に不整な変形、直線化を認める。

【上部消化管内視鏡検査】胃体中部大彎後壁より、胃体中部大彎前壁よりに発赤調の陥凹性病変を認め、胃体上部大彎に瘢痕様の退色調の陥凹性病変を認める。大彎側の襞は不整な形状に肥厚している。

【治療】胃全摘術

【病理所見】N/C比の高い類円形細胞及び、胞体内粘液を伴った印環細胞癌が充実性または索状に粘膜内、粘膜下層、筋層へ浸潤し、一部、漿膜下層へ浸潤している。一部では表層の非腫瘍粘膜を残しながら、側方方向への浸潤も伴っている。

【病理診断】adenocarcinoma

1, MU, GreAntPostLess, 0-Ⅱ c, 130x110mm, por2>sig>>muc, SS, sci, INFc, ly3, v2, N1, PM0(10mm), DM0(110mm)

2. U, Less, 0-Ⅱ c, 10x10mm, tub1, M, ly0, v0, PM0(40mm), DM0(185mm)

3. M, Gre, 0-Ⅱ b, 1mm, tub1, M, ly0, v0,
PM0(90mm), DM0(135mm)

(胃癌取扱い規約 第14版)

